

能登の里山里海



優れた里山景観

日本海に面した急傾斜地に広がる棚田や「間垣」と呼ばれる竹の垣根、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みなどが広がっています。



世界農業遺産

平成23年6月認定

石川県能登地域

「能登の里山里海」は、農林水産業とそれに関わる人々の営みの中で守り伝えられてきた祭礼や伝統技術、美しい景観、豊かな生きもののつながりなど、能登の暮らしそのものです。

伝えたい伝統的な技術

日本で能登に唯一残る「揚げ浜式」と呼ばれる製塩法や、「輪島塗」といった伝統工芸、「炭焼き」などの伝統的な技術が継承されています。



文化・祭礼

ユネスコ無形文化遺産に登録された「あえのこと」をはじめ、農林水産業と結び付いた文化・祭礼が伝承されています。



里山里海の利用保全活動

棚田のオーナー制度や農家民宿、農林水産物のブランド化、行政と大学が連携した人材育成などが進められています。

伝統的な農林漁法と土地利用

稲のはぎ干し(天日干し)や海女漁などの伝統的な農林漁法が継承されています。また、干を超える「ため池」が点在し、傾斜地には多くの棚田が見られます。

世界農業遺産認定による効果

伝統的な農林水産業の継承

「能登の里山里海」の次世代への継承

- 地域内の高校生が、農林水産業を支えてきた「地域の名人」を訪ね、その知恵や思いを聞き取りまとめる「聞き書き研修」を平成24年度から実施。



- 令和元年度からは、「聞き書き研修」をさらに発展させ、「能登の里山里海」の生業を高校生に体験してもらい、地域の魅力の再発見や定住のきっかけをつくる取組を実施し、動画で紹介。

【https://noto-giahs.jp/gal_movie.html】

- 地域内の小学生（高学年）を対象に、身近な存在である「能登の里山里海」をより理解してもらうため、副読本教材を作成し配布。



- 県内の大学生を対象に、能登の地域振興の実践例を学び、小学生へ出前授業を実施する事業を平成30年度から開催。令和元年度からは、小学生と大学生が協同して地域の魅力を再発見する取組を実施。



農林水産業の振興

農林水産物の付加価値向上と生産振興

- 「能登の里山里海」で磨かれた選りすぐりの食品を、世界農業遺産 未来につなげる「能登の一品」として認定。（令和8年3月現在43品が認定）



【認定商品販売額】
認定前に比べ
約30%増
(認定商品の平均)
※令和6年度実績



能登大納言小豆



奥能登揚げ浜塩

- 県内金融機関の協力及び企業からの寄附金を活用し、里山里海の地域資源を活用した商品・サービスの開発等の取組を支援する「いしかわ里山振興ファンド」を創設。
- 令和8年6月に「いしかわ農業参入支援ファンド」「いしかわ里山振興ファンド」の2つのファンドを統合し、380億円規模の「いしかわ里山みらいファンド」としてリニューアル。生業づくりの土台となる共同活動の維持・強化を強力に支援するとともに、地域資源を活かした生業づくりをさらに後押し。

- 世界農業遺産 未来につなげる「能登の一品」の認定数：-（H23）→43品（R7）
- いしかわ里山振興ファンドの採択件数：11件（H23）→21件（R7）累計244件採択
- 世界農業遺産認定後の能登の農業参入企業等の数：37社（R7）

地域の魅力発信と交流の促進

地域資源を活用した観光産業の推進

- 農家民宿を核に食を中心とした地域ならではの魅力を提供する「スロートーリズム」の推進。



- 平成23年度より、企業とタイアップして「世界農業遺産スタディーツアー」を実施。ツアーの参加者は、世界農業遺産を学び、「能登の里山里海」の多彩な魅力を体験。



- 世界農業遺産スタディーツアーの開催回数：2回/年（H23）→2回/年（R7）累計44回開催
- 世界農業遺産スタディーツアーの参加者数：55人（H23）→60人（R7）累計1,527人参加
- 農家民宿の宿泊者数：-（H23）→7,023人/年（R7）